

令和5年度 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	水の公園福島潟 菱風荘		
管理者名	愛宕商事株式会社	指定期間	令和4年4月1日 ~ 令和7年3月31日
担当課	新潟市北区産業振興課		
所在地	新潟市北区前新田乙364番地 1		
根拠法令	都市公園法		
設置条例	新潟市都市公園条例		
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 10,163㎡ ・建築面積 本館：428㎡（木造2階建て）管理棟兼宿泊施設、宿泊可能人数24名 体験棟：294㎡（木造平屋建て）研修施設 宿泊棟：一般39㎡×6棟・身障者46㎡×1棟（木造平屋建て） 宿泊可能人数6名／棟 ・設置年月 平成12年10月 		

施設設置目的
宿泊及び研修施設

管理・運営に関する基本理念、方針等
<p>○水の公園福島潟来園者に宿泊・研修の場を提供することを目的として運営する。</p> <p>○学校行事や子ども会等の福島潟自然体験活動を通して、次代を担う子どもたちの心身の健全な発達を促す拠点施設であるとともに、福島潟の自然観察や写真撮影、観光等に訪れた人々の活動の拠点施設となるよう運営する。</p> <p>○優良な宿泊・研修環境の提供及び福島潟の自然体験活動を生かした各種自主事業の展開により、サービスの向上を図り、子どもたちをはじめとする多くの人に福島潟の豊かな自然に親んでもらうことで、賑わいの創出と地域の活性化を図る。</p>

令和5年度

視点	評価項目	評価指標	実績	評価※	評価コメント※
市民	目標利用者数の達成	宿泊者5,029人 日帰者4,790人(自主事業含む)	宿泊者4,934人 日帰者4132人	C	宿泊者、日帰者ともに達成しなかった
	目標稼働率の達成	宿泊稼働率39.6% 日帰稼働率3.0%	宿泊泊46.27% 日帰1.26%	C	日帰りが達成できなかった
	各サービス向上への取り組み	利用者アンケートの実施	適正に実施	B	
	苦情・要望に対する対応	苦情・要望には5営業日以内に回答	適正に実施	B	
財務	設置目的に合致したサービス提供	利用推進プランや自主事業企画を3件以上実施	北陸応援割企画に参加、体験イベント等21回実施	A	指標を上回り実施した
	経営の安定化	利用料金16,021千円以上	18,936(千円)	A	指標を大きく上回った
	他施設との連携に対する理解	水の公園福島潟の近隣施設と福島潟の保全やPRについて協議会、共同事業を実施	福島潟協議会に参加、福島潟自然文化祭、福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト参加など	B	
業務	改善勧告時の対応の迅速さ・適切さ	改善内容に応じて軽易なものは即日、時間を要するものは1週間以内に対応	改善勧告なし	—	—
	安全責任者の配置と安全確保体制の確立	防災訓練年2回以上実施	2回実施	B	
	事件・事故発生時の対応の適切さ	事故発生0件	0件	B	
人材	業務仕様書等に定める事項の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	適正に実施	B	
	配置人員のミッションの理解度とスキルの習得度	職員研修を年4回以上実施	ミーティング研修6回、スキルUP研修6回実施	A	指標を上回り実施した
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	適正に実施	B	

【評価基準】
A: 要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている
B: 要求水準(評価指標)が達成されている
C: 要求水準(評価指標)が達成されていない
※評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。(評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていなければ「A評価」とはなりませんので、ご注意ください。)

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

令和5年度はコロナ前の状態に戻ったような充実した1年でした。目標値が高く数値では未達の部分もあったものの、利用者は堅調に推移しています。特に能登半島地震後、3月からの北陸応援割は、年度末の利用数増に大きく貢献いたしました。

利用動向は個人や小単位のグループでの利用が多かった印象で、帰省や観光でのお客が多く、団体のお客はまだ戻りきれていない状態です。コロナで団体活動が制限され、定例の活動としてリピートして下さっていた団体が一旦無くなってしまいました。団体利用については客層も変わり新たなスタートと考え、学生団体や各種グループに向けて積極的に利用推進を図っていきたくと考えています。

今年度は若い世代に向けてパンフレットを刷新いたしました。新パンフレットはトキっ子クラブ(子育て応援)を介して子育て世代にご案内いたしました。また、Instagramでの施設案内もこまめに発信しフォロワー数も増加しました。中高年世代にはセルフカフェを利用した掘り出し物市やミニコンサートが定着し、地元の方々に親しんでいただいています。春のイベントでは特別支援学校の作品展示などで交流を深めています。

今後は福島潟の自然を生かした体験やイベントを企画し、ビュー福島潟と連携して福島潟の魅力発信に繋げていきたいと考えています。

所管課による総合評価(所見)

利用者数は下回ったが、宿泊稼働率や利用料金は、今年度指標及び昨年実績を上回る、団体の利用が少なかったことが影響していると思われるが、安定した経営状態であると認識できる。

また、利用者ニーズに合った対応により、アンケートで高評価を得ていることは、高く評価できる。

周辺施設や福島潟関連団体と連携した事業を行うことにより、自然文化の継承に大きく貢献している。